



Title	目で見るWHO 第62号 表紙・目次・資料等
Author(s)	関, 淳一
Citation	目で見るWHO. 2017, 62, p. 1-3
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/86642">https://hdl.handle.net/11094/86642</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

# 目で見る WHO

## Depression うつ病 ～Let's talk～



— 第62号 —

**2017** 春号

発行 公益社団法人 日本WHO協会



## 日本WHO協会とは

公益社団法人日本WHO協会は、世界保健機関（WHO）憲章の精神を普及徹底し、その目的達成に協力し、我が国及び海外諸国の人々の健康増進に寄与することを目的として設立された団体です。設立より半世紀近く、関西を拠点にグローバルな視野から国内外の人々の健康を考え、行動しており、今後も積極的に目的達成のため活動していきます。

- (1) WHO 憲章精神を普及するための健康に関するセミナー等の開催及び機関誌・広報等の啓発事業
- (2) 健康に関する調査研究の受託・委託及び助成並びに研究成果に基づく提言等の研究事業
- (3) 国内外で健康に関する社会貢献活動を行う企業、団体並びに個人との連絡・調整・協力等の連携事業
- (4) WHO の事業目的達成に寄与するための募金活動及び募金収益の拠出並びに活動協力等の支援事業
- (5) 国内外の健康の向上につながる人材の育成・援助等の人材開発事業

## CONTENT

ごあいさつ	1
沿革	2
WHO憲章	3
●jaih-s との共催フォーラム 開催報告	4
命をつなぐ食～世界の食糧事情ってどんななん？～	
「世界の食糧事情を知る」	目時 しおり
「食糧の入手困難による健康問題」	忍足 謙朗
「健康問題と食事とのかかわりと国際協力」	石川 みどり
●ハイチコレラ流行に対する緊急医療支援	
～ローカルイニシアティブを利用した災害公衆衛生活動は有効か～	森田佳奈子 14
●事務局だより	18
●うつ病との正しい付き合い方	工藤 喬 19
●未来の医師のためのグローバルヘルス・スタディツアー：WKC 訪問記	
池尻達紀 東海慶音 川竹絢子 喜多村恭平 阪上慎治郎	24

## ごあいさつ



公益社団法人 日本 WHO 協会  
理事長 関 淳一

年も明け、今年もジュネーブの WHO 本部では 1 月 23 日から 2 月 1 日までの 10 日間、恒例の WHO 執行理事会（第 140 回）が開催されました。今回の執行理事会では、6 月に任期を終えるマーガレット・チャン現事務局長の後任について昨年の 9 月の締め切りで加盟国から推薦された 6 名の候補者の内から 3 名（各々エチオピア・英国・パキスタン）が最終候補者として決定され、公表されました。今後、5 月の WHO 総会に於いて、全加盟国による投票により 3 名の内から次期事務局長が選任されます。WHO は目下多くの課題を抱えており、次期事務局長の選任は注目に値します。

今回、当機関誌 62 号を発刊するに当たり、多くの方々の協力を頂きました。この場を借りまして、先ず厚くお礼申し上げます。

昨年 10 月 1 日に国際保健医療学会学生部会（jaih-s）と共催企画「命をつなぐ食～世界の食糧事情ってどんななん？～」を開催しました。Jaih-s との共催企画も今年は 6 年目を迎え、双方にとってすっかり年中行事の一つとなった感があります。今回も、企画・運営そして、この開催報告の作成まで全て jaih-s の方々にお任せし、私共は裏方の仕事に徹しましたが、命につながる、「食料」を切り口に世界の情勢を学ぶ極めて有意義な機会となりました。

また、森田佳奈子様には特にお願いして、ハイチでのコレラ流行に対する緊急支援活動のご経験の中

心にご寄稿頂きました。ご自身の幼少時の経験を常に原点として、国際保健医療現場での活動を続けておられる様子が読み取れ、極めて意味のあるレポートと思います。

又、前号に掲載した、京都大学医学部学生の方々によるスタディーツアー報告文の続編として「WHO 神戸センター訪問記」を掲載いたしました。

寄稿頂いた原稿を一読し、ロス所長を初め WKC のスタッフの方々の全面的なご協力の下で、訪問した学生の方々が、今後のキャリアを考える上で、参考になる非常に多くのことを学ばれた、極めて良いスタディーツアーであったことがうかがえました。

ところで、今年の世界保健デーのテーマは「うつ病:一緒に話そう」(Depression:Let's talk) です。4 月 7 日を中心に世界中で啓発活動が行われます。私共も、その第一弾として、今回大阪大学保健センター教授工藤喬先生に「うつ病との正しい付き合い方」と題して、うつ病対策の現状と課題等についてご寄稿頂きました。

私共も、これを機に、うつ病への対応の仕方について、年間を通じて共に考え語り合いたいと思います。

今後とも、当協会へのご協力ご支援を心からお願い申し上げます。

平成 29 年 2 月

## (公社) 日本 WHO 協会の沿革

- 1948 [「WHO憲章」が発効し、国連の専門機関として世界保健機関 (WHO) が発足する。]
- 1965 WHO憲章の精神普及を目的とする社団法人日本WHO協会の設立が認可された (本都  
京都)。会報発行、WHO講演会等の事業活動を開始。
- 1966 世界保健デー記念大会開催事業を開始。
- 1970 青少年の保健衛生意識向上のため、作文コンクール事業を開始。
- 1981 老年問題に関する神戸国際シンポジウムを主催。
- 1985 WHO健康相談室を開設、中高年向け健康体操教室を開講。
- 1994 海外のWHO関連研究者への研究費助成事業を開始。
- 1998 京都にてWHO創設50周年シンポジウム「健やかで豊かな長寿社会を目指して」を  
開催。
- 2000 WHO健康フォーラム2000をはじめ、全国各地でもフォーラム事業を展開。
- 2006 事務局を京都より大阪市内へ移転。
- 2007 財団法人エイズ予防財団 (JFAP) のエイズ対策関連事業への助成を開始。
- 2008 事務局を大阪商工会議所内に移転。定期健康セミナー事業を開始。
- 2009 「目で見るWHO」を復刊。パンデミックとなったインフルエンザに対応し、対策セミ  
ナーを開催。
- 2010 WHO神戸センターのクマレサン所長を招き、フォーラム「WHOと日本」を開催、  
WHOへの人的貢献の推進を提唱。
- 2011 メールマガジンの配信を開始。
- 2012 公益社団法人に移行。  
世界禁煙デーにあたってWHO神戸センターのロス所長を招き、禁煙セミナーを開催。
- 2013 第5回アフリカ開発会議公式サイドイベントとしてフォーラムを開催。
- 2014 WHO本部から発信されるファクトシートの翻訳出版権を付与される。

第二次世界大戦の硝煙さめやらぬ1946年7月22日、世界61カ国がニューヨークに集い、すべ  
ての人々が最高の健康水準に達するためには何をすべきかを話し合い、その原則を取り決めた憲  
章が採択され、1948年4月7日国連の専門機関として世界保健機関 WHO が発足しました。

当協会は、この WHO 憲章の精神に賛同した人々により、1965年に民間の WHO 支援組織と  
して設立され、グローバルな視野から人類の健康を考え、WHO 憲章精神の普及と人々の健康増  
進につながる諸活動を展開してまいりました。

### 歴代会長・理事長、副会長・副理事長 (在職期間)

会 長 ・ 理 事 長	中野種一郎(1965-73)	副 会 長 ・ 副 理 事 長	松下幸之助(1965-68)	加治 有恒(1996-98)
	平沢 興(1974-75)		野辺地慶三(1965-68)	坪井 栄孝(1996-03)
	奥田 東(1976-88)		尾村 偉久(1965-68)	堀田 進(1996-04)
	澤田 敏男(1989-92)		木村 廉(1965-73)	奥村 百代(1996-06)
	黒川 武雄(1965-73)		武見 太郎(1965-81)	末舛 恵一(1996-04)
	西島 安則(1993-06)		千 宗室(1965-02)	中野 進(1998-06)
	忌部 実(2006-07)		清水 三郎(1974-95)	高月 清(2002-06)
	宇佐美 登(2007-09)		花岡 堅而(1982-83)	北村 李軒(2002-04)
	関 淳一(2010- )		羽田 春免(1984-91)	植松 治雄(2004-06)
			佐野 晴洋(1989-95)	下村 誠(2006-08)
			河野 貞男(1989-95)	市橋 誠(2007)
			村瀬 敏郎(1992-95)	更家 悠介(2008-12)

## 「WHO憲章」

世界保健機関（WHO）憲章は、1946年7月22日にニューヨークで61か国の代表により署名され1948年4月7日より効力が発生しました。日本では、1951年6月26日に条約第1号として公布されました。その定訳は、たとえば「健康とは、完全な肉体的、精神的及び社会的福祉の状態であり、単に疾病又は病弱の存在しないことではない。到達しうる最高基準の健康を享有することは、人種、宗教、政治的信念又は経済的若しくは社会的条件の差別なしに万人の有する基本的権利の一つである」といったように格調高いものです。しかし、現在では、表現が難しすぎるという声も少なくありませんでした。日本WHO協会では、21世紀の市民社会にふさわしい日本語訳を追及し、理事のメンバーが討議を重ね、以下のような仮訳を作成しました。

（日本WHO協会理事 中村 安秀）

THE STATES Parties to this Constitution declare, in conformity with the Charter of the United Nations, that the following principles are basic to the happiness, harmonious relations and security of all peoples:

Health is a state of complete physical, mental and social well-being and not merely the absence of disease or infirmity.

The enjoyment of the highest attainable standard of health is one of the fundamental rights of every human being without distinction of race, religion, political belief, economic or social condition.

The health of all peoples is fundamental to the attainment of peace and security and is dependent upon the fullest co-operation of individuals and States.

The achievement of any State in the promotion and protection of health is of value to all.

Unequal development in different countries in the promotion of health and control of disease, especially communicable disease, is a common danger.

Healthy development of the child is of basic importance; the ability to live harmoniously in a changing total environment is essential to such development.

The extension to all peoples of the benefits of medical, psychological and related knowledge is essential to the fullest attainment of health.

Informed opinion and active co-operation on the part of the public are of the utmost importance in the improvement of the health of the people.

Governments have a responsibility for the health of their peoples which can be fulfilled only by the provision of adequate health and social measures.

ACCEPTING THESE PRINCIPLES, and for the purpose of co-operation among themselves and with others to promote and protect the health of all peoples, the Contracting Parties agree to the present Constitution and hereby establish the World Health Organization as a specialized agency within the terms of Article 57 of the Charter of the United Nations.

### 世界保健機関憲章前文（日本WHO協会仮訳）

この憲章の当事国は、国際連合憲章に従い、次の諸原則がすべての人々の幸福と平和な関係と安全保障の基礎であることを宣言します。

健康とは、病気ではないとか、弱っていないということではなく、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態にあることをいいます。

人種、宗教、政治信条や経済的・社会的条件によって差別されることなく、最高水準の健康に恵まれることは、あらゆる人々にとっての基本的人権のひとつです。

世界中すべての人々が健康であることは、平和と安全を達成するための基礎であり、その成否は、個人と国家の全面的な協力が得られるかどうかにかかっています。

ひとつの国で健康の増進と保護を達成することができれば、その国のみならず世界全体にとっても有意義なことです。

健康増進や感染症対策の進み具合が国によって異なると、すべての国に共通して危険が及ぶことになります。

子どもの健やかな成長は、基本的に大切なことです。そして、変化の激しい種々の環境に順応しながら生きていける力を身につけることが、この成長のために不可欠です。

健康を完全に達成するためには、医学、心理学や関連する学問の恩恵をすべての人々に広げることが不可欠です。

一般の市民が確かな見解をもって積極的に協力することは、人々の健康を向上させていくうえで最も重要なことです。

各国政府には自国民の健康に対する責任があり、その責任を果たすためには、十分な健康対策と社会的施策を行わなければなりません。

これらの原則を受け入れ、すべての人々の健康を増進し保護するため互いに他の国々と協力する目的で、締約国はこの憲章に同意し、国際連合憲章第57条の条項の範囲内の専門機関として、ここに世界保健機関を設立します。